

青年海外協力隊OBトーク・セッション： パプアのお米

～私の国際協力のカタチ～



1965年に日本政府事業として発足した青年海外協力隊事業も今年で50年目を迎えました。これまで89ヶ国に約4万人ものボランティアが派遣され、その中には620人を超える早大卒の先輩方も含まれています。さまざまな職種でそれぞれのミッションを背負い、世界各地に派遣される協力隊員たちは、現地で何を見、何を体験し、何を考え、どんなトラブル直面し、現地の人々と自分自身にどのような変化をもたらしたのでしょうか。

今回は、パプアニューギニアで小規模農家を対象とした稲作の紹介および普及活動に当たられていた元協力隊員をゲストにお招きします。美しい大自然を有し、「南太平洋最後の楽園」とも言われるパプアニューギニア。一方で、厳しい環境に置かれた人々も大勢いるのが現状です。彼らが直面する問題、それへの取り組みについて、国際支援の現場で感じられたことをありのままにお話しいたできます。ふるってご参加ください。

日時：2015年5月25日（月）16:30～18:00
会場：大隈ガーデンハウス（25号館）1階
対象：早大生・教職員・一般
言語：日本語 参加費：無料 事前登録：不要

<ゲストメッセージ>

パプアニューギニアでの配属先は農業畜産局で、同僚とともに「小規模農家のための稲作の紹介と普及」プロジェクトに従事しました。具体的には試験場の管理やトレーニングの実施・評価などを行っていました。

この度の体験談では、私が協力隊の活動や生活を通じて経験したことを中心として、開発途上国や協力隊についての話やその経験をどう現在に活かしているかお話しします。



滝澤 浩一郎 氏

2008年に立教大学経済学部を卒業し一般企業（教育業界）に就職。青年海外協力隊への参加を決意し、退社。2012年～2014年まで、青年海外協力隊に参加しパプアニューギニアで活動。帰国後、公益社団法人青年海外協力協会に勤務し現在に至る。

世界も、自分も、変えるシゴト

共催：（独）国際協力機構

セミナー運営協力：（公社）青年海外協力協会（JOCA）

